

KTK ひゅうまん 京都

No. 541 2021年12月号

編集／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内
編集発行責任者／池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

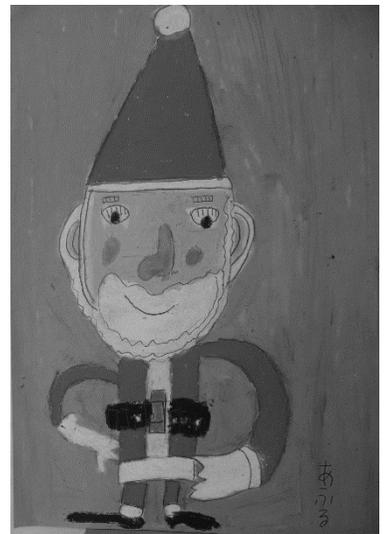
- P.1 左大文字 つどめ
- P.2 常任委員会から 池添 素
- P.3 障害のある人の暮らし 沖田友子
- P.4 血の染みついたボタン 中村 暁
- P.5 障害者と共に歩んだ京障連の50年 松本 美津男
- P.6 補装具費事件を振り返って 吉田雄大
- P.7 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P.8 2+2=詩 富士一文
- P.9 障害のある人の権利を守る北障連から 濱中 博
- P.10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P.11 知っ得情報 松本 美津男
- P.12 「病院評論家」の入院の記 井上吉郎

左大文字

「失独家庭」

中国の留学院生から「失独家庭」という耳慣れない言葉を聞いた▲1979年に始まり2015年に廃止されるまで長きに渡って続けられてきた「ひとりっ子」政策に起因するのだが、この子どもを失ってしまふ家庭を「失独家庭」という▲院生によれば「失独家庭」は少なくとも100万世帯あり、毎年数万世帯が新たに増えているという。2010年の国勢調査時点で、中国の「ひとりっ子」は約1億4500万人で、死亡したひとりっ子は約100万人。親孝行規範や子どもに老後を頼るなど伝統的な家族主義がまだ根深く残る特に中国農村部での失独家庭は経済的にも文化的にも脆弱性そのものというのだ▲結果としての「ひとりっ子」ではなく、国家によって強制された「ひとりっ子」であるが故の不条理の噴出のようだが、さらに深刻な病理的な社会問題をも引き起こしている▲11日に放映された『「事件の涙」息子よ、必ず会いに行くから』(NHK)を見て凍り付いた。中国では毎年20万件もの「児童誘拐」が発生しているというのだ。それも誘拐児の売買目的による誘拐。22年前に引き裂かれたひとり息子をいまも懸命に探す夫婦を追ったドキュメンタリーだ。もはや放置出来なくなったのだろう、中国政府もやっと今年に入ってAIやDNAを駆使した大々的な「再会作戦」と称する捜査活動を展開しているという▲バス停で交渉の末、仲介者に売ったという子どもものの値は「3千元(4万円)」。犯人の年収に相当するという。闇は深い。

つどめ



「サンタは元気」
渡辺あひる

常任委員会から

〈判決より重い課題〉

12月13日の11時過ぎ、京都地裁では、昨年7月に重度の知的障害がある17歳の長男を殺害した罪に問われた母親に対して執行猶予の付いた有罪判決を言い渡しました。京障連が中心になって、この事件を我がごとととらえ、話し合い、考えながら、第二の事件が起こらないために何ができるかを議論し、シンポも企画してきました。

加害者となった障害の重い子どもを育ててきたお母さんが、なぜ、息子の命を奪うことになったのか、決して許されることではないけれど、起こってしまった事件に対して、無力になっただけで済んでほしいと日々感じてきた日々でした。だからこそ、考え合ってきた仲間が裁判の傍聴に行き、お母さんの肉声を聞き、少

しでもできることを考えたいとの想いでした。親子をその瞬間から救えなかったけれど、私たちができることがあるはず。

今悩んでいる親子に、SOSを発信してということから始めたこと、あらためて思います。「しんどい!」「たすけて!」が言える社会に。そして、できないこととはダメなことじゃない、みんな失敗しながら、「もうダメ」とくじけそうになりながらも、とりあえず今晩一晚を乗り切ることができる。明日を生きていくことができる。毎日積み重ねを、一人じやなくて、みんなで築けたらよいのではと思います。今回、高等部卒業後の進路先のこと、事件の引き金になりました。圧倒的に進路先の不足があげられます。さらに、子どもと親のくらしを考えると、もっと選択肢は少な

くなります。子どもと親のくらしを考える問題提起はまだまだ続きます。皆さんと一緒に考えましょう!

〈来年は寅年〉

新型コロナウイルスと付き合っただけで丸2年が経ちました。あつたような短かったような複雑な心境です。しかし、まだ油断ができません。マスクと手洗いが大切なことは身に染みてわかりました。毎朝の検温などの体調管理も日常になり、身につきました。さてそのうえで、何をどうすればよいか、見当もつきません。だとすれば、もう、次に何が起こるかにドキドキするのはやめて、何が起ることをドキドキできる構えでいった方がいいのではと思ひ始めました。第6波が来るのか来ないのかわかりませんが、少しでも楽しいお正月の人と人とのつなが

りが作れますようにと願うばかりです。寅年の年女より。

〈オンラインで全国集会〉

11月23日はオンラインで障全協全国集会。各省交渉は4日に分けて、誰もがすべて参加できる枠組みで開催。今回は障害児支援もオンラインで開催し、鹿児島から、東京から、関西からといつもより多い参加者で、現場の声を届けました。オンラインの交渉も少しずつ慣れてきた感じがします。そうはいつても、厚労省のみなさんには当事者や保護者の切なる声を画面越しでもしっかりと聞き取ってほしいところです。春の障全協総会や省庁交渉はどうなることか、何とも見通せませんが、いずれにしても、しっかりと声を届けていきたいものです。

池添素(京障連事務局長)

障害のある人の暮らし

誰とどこに住むか選択できる権利を！

沖田友子

息子が入居するグループホームから見えてくるもの⑥

全国障害児者の暮らしの場を考える会は2016年11月、障害者の生活と権利を守る第50回全国集会・記念レセプションの中で、全国組織として発足し、親の高齢化等による家族介護の限界、障害者本人や親の自立・自律のためにも圧倒的に不足している障害児者の暮らしの場を作ることを目的としています。埼玉、東京、長野、愛知、滋賀、大阪、岡山、広島、福岡各地で障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会と連携して活動されています。(ニュースくらしのば第47号より)今年度から京都もこの活動に参加しています。

11月26日に中央行動として

厚生労働省との交渉がZOOMであり、先に提出していた要望に対する回答があり、初めて発言もしました。要望項目は大きく4つあります。一つは入所施設やグループホームの待機者数を把握すること。二つ目は強度行動障害や医療を必要とする障害者に対する利用拒否の問題。三つめは選択できる多様な暮らしの場を公的責任で早急に整備すること。四つ目は職員の身分保障の抜本的解決です。

私は三つ目の要望の中で暮らしの場の重度者支援について述べました。入所施設やグループホームは365日生活全体を支える事業ですが、週末帰宅せざるを得ないこと、グループホームの数は増えていると報道され

ていますが、たくさん支援が必要な重度の障害のある人が利用することは想定されておらず、

手厚い支援をすれば事業所が赤字経営となり、適正に運営でき

ない状況になっているという事実です。意見を述べたいという手がたくさん上がって2時間では足りない心を打つ訴えが続き

ました。滋賀からは強度行動障害の20歳の方が県内には入所

できる施設がなく、青森の施設に行かれた実態が話されました。自宅で夜を過ごすことがで

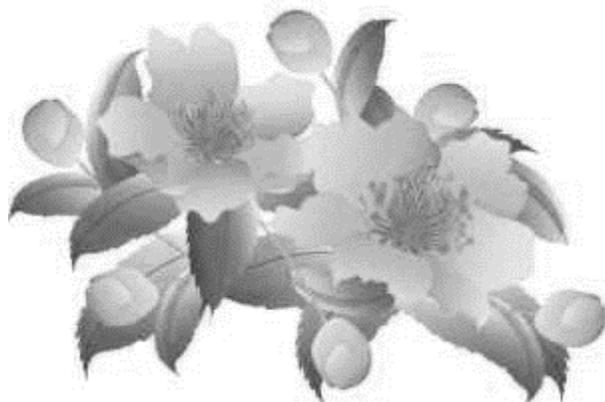
きず、車でドライブを要求する毎日、その要求にこたえ3時間も車を走らせる家族の負担はど

れだけのものだったか。そして、見知らぬ土地で施設入所とならざるを得ない状況に胸が痛みま

した。国は「限られた予算の中で」という言葉を繰り返してしまし

たが、何に予算をかけるのか、障害のある人や家族が豊かに暮

らすことのできる社会を目指す運動は続きます。



血の染みついたバトン

中村 暁 (医療ジャーナリスト)

●示された未来図

世界保健機関 (WHO) が11月26日、「オミクロン株」を「懸念すべき変異株」に指定した。その前提を崩壊させた。

メディアはこぞって(私には「色めきだつて」に思えた) 報じ、

岸田政権も防疫体制を強化、第6波襲来の緊張感が高まった。

一方、新型コロナウイルス感染症の「新規陽性者」発生件数は低位で推移し、不気味な静けさである。そして私たちはかつてないほど不安である。先が見えない。未来はおろか、明日、明後日に自分たちの暮らす社会がどうなるのか予見不能である。

もちろん個人には一秒後の未来も予見できない。病気になるかもしれないし、生命を落とすかもしれない。だがコロナ前から自分はどうか、社会の方

は明日も同じ状態で存在すると

(前提として、恐らく無意識に) 信じていた。しかしコロナ禍は

その前提を崩壊させた。

岸田政権の「新しい資本主義」

は、不安を抱えた私たちに示された支配層の「未来図」である。岸田氏は首相になる以前の9月8日、「成長を適切に分配しない

と格差の拡大は抑えることができない」「小泉改革以降の新自由主義的な政策を転換する」とメディアに語っていた。橋本政権を嚆矢とし、小泉政権で本格化した日本の新自由主義改革は、国家が巨大資本の世



界市場での活躍を全力で支援する

ための改革であり、その障壁

となる中小企業や個人事業主、労働者等への保護規制を徹底し

て破壊した。結果生み出された

のが56%を超える非正規労働者(2019年)、平均年収200万円を割る膨大な生活困窮層

である。社会保障制度も破壊され、弱り切った生活に襲い掛か

つたのがコロナ禍である。2019年に統計開始(1978年)以来、過去最低を記録した自殺

者数は2020年に再び増加、21,081人を記録したⁱ。

岸田氏の「新しい資本主義」は、こうした事態の元凶である新自由主義政治との訣別を意味する

のだろうか。

本気で分配強化したいのなら、低賃金構造を常態化させて

きた巨大資本への規制を強め、それを全力で支えてきた新自由主義政治自体の解体が必要となる。

岸田政権は、「新しい資本主義実現会議」を開き、総選挙後の11月

8日には「緊急提言」未来を切り拓く『新しい資本主義』とその起

動に向けて」を発表した。「成長と分配の好循環」の実現を謳い

つつも「まずは成長の実現が必須」と提案したのは「デジタルト

ランスフォーメーション」と「グリーン分野の成長」。これは11月

に経団連が発表した「新成長戦略」とまるで同じである。実現会

議のメンバーの多くは新自由主義政治の「成果物」を享受してき

た人たちである。こんな連中に「未来」など語られても、不安は

深まるばかりである。

ⁱ 警察庁ホームページ「自殺者数」(2021年10月6日閲覧)

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetyLife/jisatsu.html>

障害者と共に歩んだ京障連の50年（12）

京障連代表委員 松本 美津男

3施設後退をくい止める運動

2012年京都市身体障害者リハビリテーションセンター附属病院廃止の方針が出たときから「京都のリハビリを考える会」に参加し附属病院廃止を食い止めるためのさまざまな取り組みを行いました。

残念ながら附属病院は廃止されましたが、現在もその復活を求め続けています。

京都市が児童福祉センターと地域リハビリテーション推進センター（旧身体障害者リハビリテーションセンター）、こころの健康増進センターを一つの建物にしてしまう方針が明らかになった2014年には保険医協会、きょうされん京都支部、京都市職労などと共に京都市3施設

設合築方針を考える実行委員会に参加し、この実行委員会主催で「京都市3施設合築方針を考

えるフォーラム」を4回開催し、広くこの問題を市民に訴えています。

京都市の今までのやり方や現場の声からは、人減らしと跡地活用が目的ではないかと疑われていましたが、後に京都市の跡地活用リストに挙がっていることが明らかにになりました。

床延べ面積が減るのは明らかで障害児の相談窓口はむしろ各行政区にこそ増やすべきだと現場や保護者から声があがっています。

65歳問題で風穴開ける

障害者が65歳（一部の人は40

京都市3施設の合築方針を考えるフォーラムVol.3

観光は大切 でも…
生命・健康はもっと大切です!

京都市3施設は、「京都市児童福祉センター」「京都市地域福祉センター」「京都市こころの健康増進センター」の3施設です。京都市はこの3施設をついて合築しようとしています。

記念講演
「公共サービスの市場化と公共施設の統廃合政策
—3施設合築の背景—」

京都大学教授 岡田知弘氏

3施設合築って、ほんまは何のため？
京都市の子どもたちの発達保障はどうなる？
リハセンやこころの健康増進センターはどこへいく？

とき 2017年2月2日（木）午後6時30分開会

ところ 京都アスニー3F第8研修室（中京区院家廻松下町9-2）

※JR門町駅より徒歩約10分、二条駅より徒歩約15分
京都市バス「丸太町七本松」下車すぐ

主催 京都市3施設合築の方針を考える実行委員会
京都市障害者福祉の権利を守る連合会、子どもたちの教育・権利をよくなる会、
きょうされん京都支部、きょうされんを考える会、京都府障害者協会、
京都市職員労働組合
事務局：京都社会保険推進協議会 TEL 075-801-2529 FAX 075-811-4170

（歳）になると半ば強制的に介護保険に移行させられる問題について岡山の浅田さんが高裁段階で勝訴した判決（必ずしも介護保険優先ではない）をよりどころにして加盟団体構成員で65歳になっ

高時30名参加するなど、障全協加盟組織としての大きな役割を果たして来ました。障全協近畿ブロックの定期的取り組みにも積極的に参加しています。

組織強化を目指して

た肢体障害者が役員と共に京都市に障害福祉サービス利用を認めよう話し合いを繰り返して、個別事情を判断して、ということでしたが希望を実現させることができました。

加盟団体の組織縮小等で財政的にも厳しい状況が生まれており組織のあり方の検討を重ねているところですが、個人会員も増やし、親の役員も入ってもらおう複数の代表委員制をとるようになりました。

全国組織とも連携して

近年独自の取り組みが弱まっ

ていますが、障全協署名を199

7年には全国で2番目に多い1万8千筆近く集め、全国集会に最

「自助、共助、公助」と、先ず

は自己責任が強調される時代、困難はありますが幅広く手をつないで運動を進めることが求められています。

補装具費事件を振り返って

弁護士・吉田雄大

私がジョナさんと初めてお会いしたのは、2015年4月3日のことです。思いもよらない経緯で舞い込んだご相談でしたが私の事務所はバリアフリーに

それぞれ分担しつつ、自立論、行政裁量論、適正手続などの理論面だけに留まらず、日常生活のさまざまな場面毎の動き、描画の様子、芸術家としての多種多様な表現活動やこれらの支えとなる補装具の果たす役割など、あらゆる角度から実態面を丁寧に整理し、伝え方も工夫しながら取り組みを進めました。また、ジョナさん

はほど遠く電動車いすでは建物に入ることもできないうえ、事務所近くのハートピア京都で待ち合わせ、お話しを伺いました。経過説明の多くは同行されたお母様がなさいましたが、領い

なお、約5年半に亘るジョナさんのたたかいをまとめた書籍出版について、現在鋭意構想中です。ジョナさんの漫画も随所に登場する予定です。乞うご期待！

たり言葉を補ったり、ちよつとした仕事から意思の強さと思慮深さを感じました。ご自身の「副審書」も素晴らしくユーモアとウィットに富んだ文章で、不謹慎ですが「面白い裁判になる」と感じたことを今でも覚えています。私は「不服申立は間違いない

が、そして2018年12月には芸術に造詣の深い垣田貢仁子弁護士が弁護団に加入し、さらに強力なメンバーとなりました。期日直前の同年6月には舞踏家の顔を併せ持つ和田浩弁護士が、そして2018年12月には

つれづれあらぐさ

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

場面② 乙訓のベランダで

名前を叫ぶ

外回りをしてあらぐさの駐輪場に戻ってくると、何やら視線を感じます。ふと見上げると、2階の窓から手を振っている彼がいます。ずっと窓辺にいるわけではないので、「なんで帰ってくるのが分かったんやろ」と不思議に思いながら手を振り返します。

1階と2階が吹き抜けになっているあらぐさのホール。1階のホールを通っていると、同じスピードで2階の廊下を平行移動している人影が見えます。顔を出したのは、彼でした。自分の頭を「いいこ、いいこ」となで、頑張っているアピールです。

お笑い好きな彼は、モノマネをして場を和ませます（以前は「どんだ

け〜」、少し前は「こぼでした」。「中山さん」と言いながらする真似は顔にめちやくちや力が入っていて、鬼の形相とまではいきませんが思わず苦笑いです。また、通りがかるとうちの服を指差しながら、「靴下の色は）黒」（シャツは）青」とファッションチェックが始まります。

家で過ごすのが大好きで離れがたい彼ですが、いろいろな場所にいるいろいろな人たちと過ごせるようにと、これまで時間をかけながら社会経験の場を広げてきました。ショートステイ当日までは弱気な様子も見られますが、行けば自分のペースで過ごしています。日中一時支援で一緒にメンバーとお菓子を分け合ったり、持参のくまのプーさん（ぬいぐるみ）をショートステイで他のメンバーに勧めたりする姿も見られます。スタッフの「髪切ったんですね」の言葉に「男前！」と返し、年内最後の利用だった先日は「今年もお世話になり、ありがとうございます」と自分

から挨拶をして帰ったそうです。

「ちよっとずつ成長していると思う」「言葉が増えて、よく話すようになった」とご家族。自己主張するようになり、「思ったことを通そうとするので、ちよっと大変」とも話されています。料理をすると言い張ってカレーを焦がしたり、買い物に行くスーパーはマツモトと決めて譲らなかったり…ご家族は、現在30代前半の彼が40歳頃までにグループホームに入居するのを目標にしています。ご家族が思い出したように笑いながら、「そういえば…」と話し始めたのが、「家のベランダで、なかやまみこー」って何度も叫んでたわ。夕暮れ時に自分の名前が響き渡る光景を想像して、おかしいやら照れくさいやらでした。

中山 恵美子（あらぐさ福祉会）

2+2=詩

「呑まれそうな空」

黒い夜空を覗いていると何かガスポンと抜けていく。
空いっぱい漆黒に僕の中のなにかが吸われていくよう。

街の明かりも人のざわめきも僕の心と諸共に、
全て吸い上げられて。

夜空に飲み込まれて。

真空の宇宙めがけて落ちていって。

気づけばまるで夢幻のように、

全てのもはそのまま、

地面に足をつけ息づいている。

そして夜空も変わらずに、

くろぐろとした口と眼を大きく広げて、

静かに僕らを見下ろしている。

「夕焼けジュース」

おひさまストンとおっこちた

地面にぶつかり真っ赤になった

真っ赤なジュースが広がって

大地がジュースを飲みほした

一日一杯おひさまジュース

やめられないねと笑ってる



「いいな」

犬はいいな

走り回ることだけ考えてればいい

猫はいいな

眠ることだけ考えてればいい

動物はいいな

生きることだけにだけ全力でいればいい

人間なんて嫌だな

生きるだけのことがこんなにつらい

「夕方の風景画」

夏の夕暮れ。宵の人。

暗く青い空。薄墨色の雲。

オレンジ色の照明。白い街灯。

押しつけられるように物陰に溜まる暗闇。

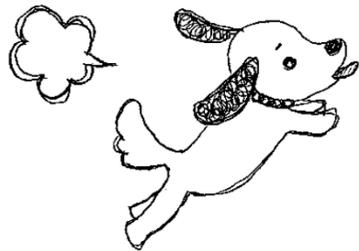
逆光の中歩く人はまるで影法師のようで、

その縁は滲んでいる。

まるで絵画のように現実味のない景色を見る僕もまた、

今このひと時だけは現実から半歩はぐれているのだろう。

作・富士一文 挿絵・水口萌恵



障害のある人の
権利を守る 北障連から

濱中博

二〇一八年総会での講演

「高校の特別支援
教育から、青年・成
人の支援を考える」

講師… 谷口藤雄（福知山高
校三和分校勤務、京都府立高
校特別支援・進路支援教員）



高校生をとりまく状況は、
『競争と選別が進行するも
で、危機的状況である。よい
中学生の『青田買い、休・退
学生徒の拡大、勉強時間の二

分化（勉強しない生徒の割合は京都がトップ）、社会的不適応生徒の事例から、自己評価（自己肯定感）と価値観の歪みが非行問題の引きがねになっている。この問題や歪課題である』と、更に、『いま、学校現場に求められていること、中退を無くすため「高1シヨック」を和らげる中高の連携強化や、関係機関との連携が必要である』話されました。統計資料を使い、他の通学圏に比べて丹後通学圏で支援学校に入学する生徒の比率が非常に低い事や要因についても分析されました。とてもわかりやすい講演でした。

① このような学習会をもっと、開催してください。

高校での実践の話、生徒の症状に応じた対応、学習権の保障を行政に要求されている。生徒にも十分に配慮。授業の内容も工夫されている。個人の尊厳を守り、一人一人がかけがえのない存在である生徒に対しての対応に工夫と研究の姿勢が伺えました。定時制高校の実態の現状が良く分かりました。支援学校の中学部から定時に通うことに対して教職員の対応の困難さを感じました。

② 手帳があれば、福祉サービスが受けられる。資料を基に、具体的なお話しで分かりやすく、とてもおもしろかったです。谷口先生のような支援教員がもっと必要です。このような学習会をもっと開いてください。

支援の必要な生徒が一般校に入ってくる時代、必要な手立てを一般校でするのか、支援学校に進学する手立てを講じるのか。今、ある中で頑張っておられる先生もあるのですが、当事者の生徒が輝けるように、何が出来るのか、小さなことからでも始めていかないと。現在、与謝野町の支援学級にも、支援学校対象の児童が親の希望もあり在籍しています。その子どもたちが豊かに学び働けるように支援してあげることが大切かと思いました。

京丹後市の自立支援協議会でも、谷口先生の話聞いたが、青年期の課題として北障連でも取り上げていくべきだと思います。もう一度機会を持って、じっくりと学習したい内容でした。

北障連は、「丹後通学圏の特別支援教育の在り方」や「引きこもり」の学習第2弾を行います。北障連に加盟する事業所や相談支援センターに、ここ数年「引きこもり」の青年や成人の支援に関しての相談が持ち込まれるようになっていきます。彼ら・彼女らはとても深く傷つき回復の途にたどり着くまで長い時間を要します。自己責任の新しい主義の中で、多くの児童・生徒・青年たちが苦しんでいます。不登校生とは19万人を越えます。高校の中退退学者は6万千人、引きこもりの人たちが100万人を越え、家族単位で社会から孤立しています。そこに手立てと学習をと思っています。北障連は、丹後通学圏の特別支援教育の在り方の学習その②、「引きこもり」の青年・成人の実態とその支援その②の学習を行います

22年2月5日(土)
Pm2時〜知遊館
北障連学習会「丹後福祉圏域の引きこもり」の実態と支援「ひととわ」と与謝野町の引きこもりポラティア」…たんぼぼの実践

365歩のマーチ



21 表現ゆたか

「きーらーきーらーひーかーるー
ーおーそーらーのーほーしー
よーん」。

保育園で覚えた歌を家でもこ
機嫌で歌うようになつてしまし
た。レパートリーは「きらきらほ

し」「バス」「さんぽ」…お
そらら3曲。上手だなあと思つて

見ていると、視線を感じて歌うの
をやめます。父も母ももう一度歌

つてほしく、「ゆいちゃん、き
らきらほ」歌つて「お」とリクエス

トするゆいほらほきえて「みん
な、見てから、いよ」とリクエ

ストに答えてくねませせん。
ある時には、外から帰ってき

て、「ゆいちゃん、おてて洗つて
ね」と言ひひ、「なんもさわわつて

なごー!」。なんと言ひわつてしまつて

何も言えませせん。

2歳も中盤にさしかかり、いろ
んなことを感じながら、そんな

ことばどこで覚えたの?と思
うくらいのことばも気持ちも広が

つてきました。
※

ゆいちゃん遊ぶ時、よくゆい
ちゃんをくすぐつたりして遊び

ます。少し前までは、「まごつ
た!」「やめて!」「なにと言つて

おり、なんと言ひわつたよ、くすぐ
ていたのですが、ある日つひつひく

くすぐつてごめん、やめて。も
お…やめてつて!」「と言ひわつてし

まいました。「ごめん、いよ、ゆい
ちゃん」。

数日後…テレビの画面が気に
なつたゆいちゃん。姿勢を変えて

のぞき込もうとしていますが視線の

先に私がおり見えなかったよつで

す。「見えない!」と言われた時に
あまり気にせずにいると「見えな

い…見えない…見えないっ
て!」「と怒られました。すみま

せん、ゆいちゃん。
「やめて」「見えない」「だけでは

なく、」「もあー!」「つて!」のなか
に、「この人は、何度も言つてい

るのになんでわかってくれないん
だろう」という気持ちが伝わって

きました。
同じように、その他にもいろ

んな場面で細かく表現が変わつ
てきました。

「はんの準備が遅いと」「おな
かすいた」「よー!」

・熱々のごはんをゆいちゃんの
前に出すと「あついのがいよや

』のー!」
・ゆいちゃんには普通のカレー、

父は横でグリーンカレーを食べ
ていると「おとの、カレーち

やう!」「やと!」
・粘土で遊んでいる時「口、口

口と細長い粘土がでまゐると
「見よ、長い!」「わ!」

「おなかすいた」「いよや」「ち
がつ」「長い」とただ事実だけを

言っていた頃から、相手に伝え
たい、自分の思いを相手と分か

ち合いたいという気持ちが語尾
に表れているような気がしま

す。それとも「わ!」「○○やん
」△△やで「…着々と関西弁を

身に着けていきます。



【園】 藤原 中郎 (あかひつねの園)

知っ得情報

在日外国人障害者給付金

松本 美津男

7月号では府下自治体の代表例として京都市の「外国籍市民重度障害者特別給付金」を紹介しました。

実は、京都府の制度として同じような内容の制度があったのですが、府下自治体の制度はその府の制度に独自の上乗せをして実施しているものと思ひ込んでいました。

しかし、少なくとも京都市の場合は市単独の制度であり、京都府に申請すれば更に給付金を受け取れることがわかりました。

京都市は、特別給付金の申請があった場合はできるだけ府の給付金の紹介もしているとの事でしたので、漏れはないと思ひますが、住んでいる地域の窓口によってはそのような対応がされていないかもしれませんで、もし府下自治体の給付金を受け取っていても、府の「在日外国人重度障害者特別給付金」を受け取っていないければ京都府に問い合わせるみて下さい。

〈申込・相談先〉

京都府障害者支援課 電話 075-414-4598 FAX 075-414-4597



あなたもぜひ
仲間に

サロン・サークル・地域活動展開中
生活支援スタッフ(資格不要)募集中
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5
電話075-432-3636

命の平等をかけた、
無差別平等の医療と
福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: info@kyoto-min-iren.org

ありがとうございます

年会費

桐村裕子・坂本正伸

(敬称略 2021.12.10)

1992年6月5日第3種郵便認可(毎月1回25日発行)
2021年12月25日発行
KTK通巻5199号

〒602-8144

京都市上京区丸太町通黒門東入藁屋町536-1
発行所 京都障害者団体定期刊行物協会

発行人 高谷修(購読料は会費を含む)
〒602-8144 京都市上京区丸太町通黒門東入藁屋町536-1
元待賢小学校1階 京都難病連内

「病院評論家」の入院の記

3月18日ヨルに中央病院に入院し、22日夕方に退院しました。4泊5日の入院でした。「今年も入院することのない年に！」が目標だったのに・・・。「病院評論家」の“宿命”なんですかね・・・。画像を診て、医師は「気胸ですね。自然気胸です。CTとレントゲンの画像かわかります。ごく小さな気胸です。念のために入院して様子をみましょう」と医師は言いました。

鼻の孔から空気を送り込むなどの処方でした。手術や点滴もない状態で、ひたすら寝ました。起床時は、水上勉の『金閣炎上』と三島由紀夫の『金閣寺』を読みました。朝刊3紙と夕刊2紙、そして文庫本2冊が、入院生活に無聊を慰めてくれた「友達」でした。「感謝」しています。談話室が読書スペースです。

コロナ禍の病院を経験しました。この病院には、コロナ患者用のベッドが10床あるようですが、これらは使われていませんでした。しかしながら、入院病棟には本人しか入れませんので、連れ合いの声も顔も見られません。他人の手を通じて新聞を貰っていました。「静か」と言えなくもありませんでしたが・・・。談話室に昇る朝陽が雲間から輝いていました。

今回の入院は、新装なった民医連中央病院でした。以前の中央病院と比べると(一患者のささやかな印象記に過ぎませんが・・・)、廊下が広くなり、トイレの使い勝手がよく、周りに高い建物がなくて、東西南北が見渡せました。右京区という京都盆地の西側ゆえ、北側が山かげに隠れて見えにくかったという難点がありましたが・・・。その代わりというわけではありませんが、「鳥居」(とりい)型の山が指呼の先に見えました。

入院で頻繁に目を合わせ、言葉を交わすのは看護師です。「病院評論家」の僕は、これまで何百人もの看護師の「世話」になりました。今回もマアママ、可もなし不可もなしの人もいましたが、大多数はフレンドリーで「ヴェリーグッド」でした。人間同士のやり取りです。

病棟が4階で、周りに高い建物が無いという幸運にも恵まれて、早朝の東側の広い窓からは、山の端から登る燦燦と輝く朝陽と比叡山と大文字(如意が岳)の山がみえました。人の声もせず「独占」状態でした。窓越しに見えた朝陽と東山連峰は神々しく、希望にあふれていました。

(井上吉郎・本紙編集長)